

2016年度 鋼構造塑性設計小委員会 第2回 議事録

日 時：2016年11月3日（木） 14:00～18:15

場 所：建築会館 305会議室

出席者：五十嵐規矩夫（主査）、高松隆夫、玉井宏章、金尾伊織、岡崎太一郎、佐藤篤司、向出静司、岩間和博、石原清孝、聲高裕治（記録） [下線部＝欠席]

資 料

No. 02-01 2016年度鋼構造塑性設計小委員会第2回議事予定（2016年11月3日）

No. 02-02 2016年度鋼構造塑性設計小委員会第1回議事録（案）

No. 02-03 2017年度 委員会活動計画案
2017年度大会 構造（鋼構造）部門（案）

No. 02-04 奥付および委員構成

No. 02-05 1章 基本事項および付1（玉井）

No. 02-06 2章 塑性解析および付2（玉井）

No. 02-07 3章 全塑性モーメント（玉井）

No. 02-08 4章 板要素の幅厚比（五十嵐）

No. 02-09 5章 梁（金尾）

No. 02-10 6章 柱（佐藤）

No. 02-11 7章 ブレース（岡崎）

No. 02-12 8章 接合部および付3（聲高）

No. 02-13 9章 崩壊荷重の算定法（石原）

No. 02-14 10章 骨組と部材の変形（聲高・向出）

No. 02-15 11章 設計例（岩間）

No. 02-16 「鋼構造塑性設計指針」改訂講習会（五十嵐）

No. 02-17 平成28年（2016年）熊本地震の建物被害調査報告（玉井）

No. 02-18 4章および指針全体（五十嵐）

No. 02-19 第4版の追加事項（案）（聲高）

審議議題

1. 2016年度第1回議事録の確認

- 資料 No.02-02 に基づき前回議事録が読み上げられ、了承された。

2. 鋼構造運営委員会の報告

- 資料 No.02-03 に基づき、2017年度の活動計画案とPDの素案について説明された。
 - 活動計画案は既に提出済みである。
 - 中野達也先生（宇都宮大学）が本小委員会に参画することを審議し、了承された。鋼構造運営委員会・構造本委員会での承認を経て、2017年度から参画してもらう予定である。
 - 鋼構造運営委員会の次期主査が、井戸田秀樹先生（名古屋工業大学）に決まった。

3. 初校に対する確認

- 資料 No.02-04 に基づき、奥付と委員構成を確認した。
 - 奥付に、「本書のご利用にあたって」という注意事項を記すことが、学会全体で統一された。
 - 前主査と前幹事を、*を付して表示する。
- 資料 No. 02-05～0215 に基づき、初校の校正結果について確認した。
 - 事務局側で修正されている点を確認するため、根拠となるルールの記されている書類などを入手する。この点については、再校の校正時に改めて確認する。
 - 5章で「横座屈補剛間長さ」「横座屈補剛区間の」「補剛間隔」などの語句について、「間」の使い方をできる限り統一するように再検討する。
 - 8章で接合部パネルの全塑性モーメントの適用範囲を再確認する。
 - 寸法線の両端には、矢や●を設けない。
 - 式中で、記号と記号の間に「・」を挿入する。
 - American Society of Civil Engineers は ASCE と表示するなど、略称で統一する。
 - 索引に掲載する語句を確認するのを失念していたので、次回小委員会で検討する。

4. 4版の課題等

- 資料 No.02-17 に基づいて、玉井委員より熊本地震の被害調査報告がなされた。
 - 地震被害事例を含めて塑性設計の適用性を検討する必要がある。
 - 資料とは別に、弱軸曲げを受ける H 形断面材のせん断力を考慮した全塑性モーメントを検討する。
- 資料 No.02-18 は説明せず。次回以降に検討する。
- 資料 No.02-19 に基づいて、聲高委員より中野先生の担当内容の案について説明があった。
 - ブレース接合部の執筆にあたっては、岡崎委員にもご協力いただく。
 - 資料 No.02-19 の一部については説明せず。次回以降に検討する。

5. 今後の予定

- 校正結果の提出
 - 11月7日（月）午前中までに、執筆担当者がストレージサーバにアップする。
- 再校以降のスケジュール
 - 別途、幹事が事務局に確認する。
- 資料 No.02-16 に基づいて、講習会の会告が説明された。
 - 佐藤先生の都合がつかないため、3月2日の名古屋会場の講師は五十嵐先生に交代する。
 - 講義補助資料と講義用スライドの作成（要領、期日）については事務局に確認する。
- 次回小委員会の日程は、講習会用資料の提出や校正の日程を勘案して近日中に決定する。場所は建築会館、時間帯は午後を想定している。以下の内容を審議する予定である。
 - 講習会の資料の確認。
 - 積み残し課題の洗い出し。
 - 塑性設計指針のあり方に関する検討。

以上